

法然上人御法語正如房へつかわす御文
誰とてもとまりはつべき身にて候わ
ず 我も人もただおくれ先立つかわり
めばかりにてこそ候え そのたえ間を
思い候も またいつまでかと定めなき
上に たとえ久しと申すとも夢幻いく
ほどかは候べきなれば ただ構えて同
ど仏の国に参りあいて 蓮の上にてこ
の世のいぶせさをも晴け 共に過去の
因縁をも語り 互いに未来の化道をも
助けんことこそ 返す返すも詮にて候
べきとはじめより申しおき候しが 返
す返すも本願を取りつめ参らせて一念
も疑う御心なく一声も南無阿弥陀仏と
申せば 我が身はたとえいかに罪深く
とも仏の願力によりて 一定往生する
やと思し召して よくよく一筋に御念
仏の候べきなり

為

令和 年 月 日

浄写